

国語科 学習指導案

豊能町立光風台小学校

1. 日 時 令和5年9月28日(木) 第3時限 10:45~11:30
2. 場 所 第1学年1組教室
3. 学年・組 第1学年1組(20名)
4. 単元名 しらせたいな、みせたいな (使用図書・教科書: 光村図書)

5. 単元の目標

- ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。
- 文章を読み返す習慣を身につけるとともに、まちがいを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。
- 助詞の「は」、「へ」、及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。

6. 本単元で取り組む言語活動

見つけたことを記録して伝える。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、書き表している。 ・文章を読み返す習慣をつけるとともに、まちがいを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもち、知らせたいものをいねいに観察し、見つけたことを文章にして伝えようとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

1 学期は、ひらがなの読み書きの学習に熱心にとりくみ、文字を読むことや書くことに少しずつ慣れてきた。言葉集めや物語の読みとりなどでは、積極的に発表する姿も見られる反面、発表を苦手とする児童もいる。「書くこと」の学習として、「～は」「～を」「～へ」を使って簡単な1文を書くことから始めた。生活科の観察では、五感を使って気づいたことを話し、教師が聞き取ったことを文字にして記入することから始め、少しずつ自分で考えて文章に表すこともできるようになってきた。同様に休み時間のできごとや行事などを絵に表し、様子や気持ちを話し、教師が聞き取ったことを文字にして記入することから、自分で考えて絵日記を書くこともできるようになってきた。「すきなもの、なかに」の学習では、自分のすきなものとそのわけを書く活動に取り組んだ。書くことへの抵抗はだんだん少なくなり、絵日記や生活科の観察カードなどを楽しく書いている様子も見られ。しかし、「は」「を」「へ」などの助詞や拗音、促音などの表記は、まだ正しく書くことができない児童も少なくない。また、文字の読み書きや音読、絵日記の題材選び、文章を書くことなどに苦手意識を持っている児童もいる。

(2) 教材観

「しらせたいな、みせたいな」は、学校生活の中で見つけたものの中から知らせたいものを選び、それを色々な視点から観察し、文章に書いて伝える教材である。児童は、学校生活の中でさまざまな体験をし、自分が発見したことなどを「知らせたい」「見せてあげたい」という思いを持っている。それを相手にわかるように文に書いて知らせようという意識を持ってとりくませたい。

まず、知らせたいものを選び、五感を使って詳しく観察し、色や大きさ、さわった感じなどを短い言葉でメモを取り、メモをもとに文章を書いていくという学習になっている。学習の流れは、一年生の児童にとっても取り組みやすい表現活動と言える。知らせたいものをよく観察したり、取材したりしながら、自分が発見したことを知らせたいという思いをたくさん持たせ、意欲を持って書く活動へとつなげたい。

(3) 指導観

子どもたちは、これまでの学校生活の中で、多くの体験をし、その過程で「だれかに知らせたい。」という気持ちを持つことが多い。本単元の導入にあたって、「友だちや家の人に知らせる。」という場を設定することで、意欲的に取り組めるようにしたい。自分の書いた文章を読んでもらう時に、どのように書くとよくわかってもらえるかを意識して活動にとりくむことで、よりよく観察することにつながり、様子がよくわかる文章表現につながっていくと考える。

指導にあたっては、題材に対して五感を働かせて書く視点を示し、発見したことや気づいたことをたくさん集めさせたい。よく観察することで、書くことへの意欲が高まり、また書こうとする意欲が高まることで、対象の物をよく観察するようになっていく。そして、相手に伝えるために文章の組み立てや表現のしかたを工夫することにつながるよう指導していきたい。自分の思いや考えを書いて知らせることの楽しさや自分が書いたものを読んで相手にわかってもらえる喜びを体験することで、今後の「書くこと」への自信につながるようにしたい。また、友だちとの伝え合いの中で、自分の作文のよさや友だちの作文のよさに気づかせたい。

9. 単元の指導と評価の計画 (全12時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知 技	思 判 表	主 体	評価規準・評価方法
1	① 単元名とリード文を読み、学習目標を確認する。 ② 教科書を読み、大まかな学習のながれを知る。			○	・誰に・何を・どのように知らせればよいのか、どのように学習をすればよいのかを理解している。(観察・発言)
2 ・ 3	③ 教科書の例から、メモの書き方を知る。 ④ 教科書の例から、何が、どんなようすなのかをメモの表にまとめる。	○ ◎	 ◎	○	・教科書を参考にして、メモの書き方を理解する。(観察・発言) ・メモを参考にし何がを見つけながら表にまとめている。(記述)
4 ・ 5	⑤ 知らせたいものを見つけ写真を撮り、よく観察し、撮った写真から線を引いて、観察して見つけたことや気づいたことを短い言葉で書く。 ⑥ 自分が書いたメモをもとに、何がどんなようすなのかをメモの表にまとめる	◎ ◎	 ◎	○ ○	・知らせたいものの写真を撮り、特徴を短い言葉で書いている。(観察・記述) ・短い言葉で書いた特徴と主語(何が)を表にまとめている。(観察・記述)
6 ・ 7 (本時)	⑦ 教科書の作品例から、メモの表をどのように文にするのかを知る。 ⑧ 自分の知らせたいものについて書いたメモの表をもとに、短い言葉を文にして、短冊カードに書く。(本時)	○ ◎	○ ◎	○ ○	・「～は、～です。」という文を書きつけてつなげればよいことを理解している。(観察・発言) ・メモの表をもとに、「～は、～です。」の文を書き、読み返してまちがいを正している。(記述)

8 ・ 9	⑨ 短冊を並べ替えて、書く順序を考える。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文の順番を考え、わかりやすい文の組み立てを考えている。(観察) ・推敲してまちがいを正して文章書いている。(記述)
	⑩ 書き出しを考え、決めた順序に沿って文章を書き、推敲する。	◎	◎	○	
10	⑪ 推敲した文章を読み返し、清書する。書いた文章を友だちと読み合い、よいところを伝え合う。	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み返し、まちがいを正しながら清書している。 ・よいところを見つけている。(発言・記述) ・書いて伝えることのよさに気づき、次の書く学習の意欲をもとうとしている。(発言・記述)
	⑫ 家の人に読んでもらって、感想をもらう。	○	○	◎	
	⑬ 学習をふりかえる。				

10. 本時の展開 (7/12時間目)

(1) 本時の目標

見つけたことをどのように文にするのかを理解し、1文ずつ書くことができる。

(2) 本時の評価規準

見つけたことを「○○は、○○です。」と主語を明確にして、1項目ごとに文を書いている。

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (5分)	1. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">見つけたことから、文をつくろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての文を一斉音読して、確かめさせる。 	
展開① (20分)	2. 前時の学習をふりかえり、短い言葉を文にするときには、「～は、～です。」の形にすることを確認する。 3. 短い言葉を文にして、短冊に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の18ページを元にして書いたメモの表・19ページの作文の拡大図を準備して、書き方の例を示す。 ・「～は、～です。」の書き方を押さえる。 ・～はの主語に着目させ、何がどんなようすなのかわかるように書くことを押さえる。 ・もっとよくわかるようにつけたしている文があることを押さえる。 ・短冊カードを配布する。 ・「～は、～です。」の書き方で書かせる。 ・3～4文書けるように声かけをする。 ・もっとよくわかるように、つけたす文はないかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモの表から「～は、～です。」の形の文にすることを理解している。(観察・発言) ・主語を明確にして、「～は、～です。」の文を一項目ごとに書いている。(記述)

<p>展開② (10分)</p>	<p>4. 書いたカードを見直して、まちがいが ないか自分で確かめる。その後、ペ アの友だちと読み合い、アドバイス し合う。</p>	<p>・見直しするときの観点を確認する。 ① 「～は、～です。」の文が作れてい るか。 ② 「、」や「。」がついているか。 ③ 「、」をつけた方が読みやすいところ はないか。 ④ 「は」「を」「へ」を正しく使って いるか。</p>	<p>・まちがいがいないか 確認したり、アド バイスしたりして いる。 (観察・記述)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5. 本時のふりかえりをする。 6. 次時の予告をする。</p>	<p>・自己評価をさせる。 ・書きあげた短冊カードをどんな順番 にするか考え、文章を書くことを知 らせる。</p>	<p>・今日の学習をふり かえり、自分の書 いた文を評価して いる。(記述)</p>

(4) 本時における具体的な児童の状況 (※本時の評価規準に関わる場面において)

<p>おおむね満足できる状況 (B)</p>	<p>努力を要する状況 (C) への支援</p>
<p>見つけたことを「〇〇は、〇〇です。」と主語を明確 にして、1項目ごとに文を書いている。</p>	<p>短い言葉で書いたこと的主語が何かを明らかにして から書くように助言する。</p>